

知財実務を変える純国産AI「tsuzumi 2」活用ガイド

— 日本語・機密・コストの最適解 —



tsuzumi 2 の4つの中核価値

30Bモデルによる「1GPU・オンプレ」運用



A100 40GB規道のGPU 1基で動作し、推論コストを大規模モデルの10～30分の1に低減、機密情報の精緻処理に最適です。

視覚拡張版「tsuzumi 2 Vision」



図表、グラフ、フロー図を含む日本語ビジネス文書の埋め込みに特化したアップデートが2026年5月に公表されました。

世界トップクラスの日本語・RAG性能



日本語の指示遂行や、外部知識を参照するRAGにおいて、GPT-5に匹敵する高い評価スコアを記録しています。

デジタル庁ガバメントAI「源内」に採用



2026年3月、政府職員向け生成AI環境の検見対象に選定され、社会的信頼が求められる安全性と信頼性が示されています。

知財業務別の適用性評価 (適合度マップ)

✓ 適合度: 高 (出願支援・要約・インタビュー)



発明の論点整理、実案例の骨子化、日英翻訳ドラフト、面談の質問設計などで高い効果を発揮します。

— 適合度: 中 (契約レビュー・特許調査)



チェックリストに基づく不足条項の検出や、検索結果のタグ付けに有効ですが、最終判断には人の確認が不可欠です。

✗ 適合度: 低～中 (侵害調査・FTO)



クレーム (請求項) の厳密な解釈や図面・数式の精緻な誤解には、現状のAIでは限界があり、論点管理の補助に留めるべきです。

安全な導入のための「4層アーキテクチャ」

1. データ保護層

案件の機密区分 (極秘・営業秘密等) を判定し、高機密データは等価・オンプレ環境へ誘導します。



2. モデル実行層

テキスト昇格はtsuzumi 2、回察・帰票を扱う業務はVision機能へと自動で振り分けます。



3. 監査・ログ層

プロンプト、参照文書ID、出力票、人による修正履歴をすべて記録し、説明責任を担保します。



4. 評価・改善層

毎月の正答率やリーガルリスクを監視し、プロンプトの修正や追記手宙にフィードバックします。



実務導入
3段階ロードマップ

【短期】テキスト中心のクローズドPoC 契約・翻訳、インタビュー支援など、テキスト主体の業務で安全性を構築しながらスモールスタート。



【中期】RAG統合とワークフロー化 社内適宜案件や特許DBをRAG連携、授権 (エビデンス) 付きの出力を標準とし、専門家が確認するフローを構築。



【長期】Vision・知財特化・監査自動化 接査機能をフル活用した困困・帰票対応を開始。知財専用評価セットを用いてガバナンスを継続改善。